

日本人頭蓋ノ重量ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/30992

日本人頭蓋ノ重量ニ就テ

金澤醫科大學解剖學教室(岡本教授指導)

學生 新 川 一 二

日本人頭蓋ニ就テノ計測ハ明治三十二年岡山醫學專門學校標本九十四個ニツキ、足立文太郎教授ガ、又一八八三年ベルツ氏ガ東京醫科大學解剖學教室ノ標本ニツキ、一八九三年ニ小金井教授ガ二十五例ニツキ調査報告セラレ、當大學解剖學教室標本(男性百六十六個、女性百二十個、合計二百八十六個)及ビ京都大學解剖學教室標本(男性百二十七個、女性八十七個、合計二百四十四個)ニツキ中野鑄太郎氏(大正二年)計測ヲ行ヒ、最近ニ至リテ京都帝國大學解剖學教室ニテ宮本博人氏ガ現代日本人ト云フ立場ヨリ更ニ嚴密精細ニ頭蓋骨ノ計測調査ヲ行ヒ、我國人種解剖學上極メテ重要ナル論文ヲ公ニセラレタル氏ノ勞ヲ多トセザルベカラズ。然リト雖モ是等今日迄ノ頭蓋計測ヲ見ルニ孰レモ頭蓋ノ重量計測ヲ行ヒタルモノナキガ如シ。元來頭蓋ノ重量タル、人種解剖學上果タ又其他ノ形態學上ニ餘リ重大ナラザル役目ヲナスモノニアラザルヤモ知ランモ、既ニ歐洲人頭蓋ニテ是レガ計測行ハレ(Klein等ノ如キ)、又頭蓋ノ年齡的輕重差異、及ビ性別的輕重ノ差異アルコトハ既ニ一般教本ニ記載スルニ於テハ、日本人頭蓋ニツキテモ其重量ノ一般ヲ知ルコト敢テ無益ナラザルヲ知ル。宜ナル哉最近長崎解剖學教室ノ原教授ガ東京帝國大學解剖學所藏ノ一小頭頭蓋ニ就テ計測調査報告ヲ公ニスルニアタリ、其中ニ日本人正常晒曬頭蓋男性十四例ノ平均重量ヲ計測セリ。故ヲ以テ予ハ將來再ビ斯クノ如キ比較ヲ要スルコトアリヤヲ惟ヒ、金澤標本三百八十六個(男性二百二十八個、女性百五十八個)ニ就テ重量ヲ計リ後日ノ參考ニ資セントス。當教室所藏ノ骨格ハ主トシテ天然晒曬法ニ依レルモノニシテ完成セル後ト雖モ尙且多少ノ脂肪、骨質内ニ存留セザルヲ保セズ、故ヲ以テ嚴密ニ嘴曝骨格トシテ其重量ヲ計測スルコトモ

(1597)

トヨリ難シト雖モ、今日他ニ適當ナル材料ヲ得ル迄ハ是等材料ヲ用ヒテモ大體其見當ヲ知ルコト敢テ無益ナリト思ハズ。又其計測方法トシテ艱難ヲ感ジタルハ、齒ヲ完全ニ備ヘザルモノヲ含ムニアリ。而カモ是等ハ尙齒ノミニテ別ニ重量ヲ測リ、是レガ平均重量ヲ知ツテ脱齒ヲ補ヒタリ。老年材料ニテ自然脱齒シ、齒槽突起ノ吸收サレタルモノハ假定的齒ノ重量ヲ加算セザリキ。

斯ノ目的ノ爲メニ先ヅ年齢三十歳代ノ各種齒牙ニツキ其平均重量ヲ檢シタルニ、

門 齒 (二二個)	平均	〇・八瓦
犬 齒 (二一個)	同	一・〇瓦
小白齒 (三五個)	同	一・二四瓦
大白齒 (二五個)	同	一・九瓦

ノ如キ平均重量ヲ得タリ。尤モ門齒及ビ小白齒ハ第一、第二ノ二種、大白齒ニハ三種アルモ、便宜上一種ト假定シテ計量セリ。蓋シ其差異餘リ大ナラザルヲ思ヒタレバナリ。又頭蓋ノ重量トシテ下齶骨ヲ加ヘタルモノト、下齶骨ヲ加ヘザルモノトノ二様ヲ計測セリ。

一、頭蓋ノ重量

先ヅ第一ニ標本ヲ貯藏ノ状態ノマ、(齒牙ヲ完全ニ補充セズ)ニテ重量ヲ計測セリ。然ルトキハ下齶骨ヲ含マザル頭蓋ニテハ男性二百二十八個ノ平均五六八・六三瓦、女性百五十八個ノ平均四四三・〇一瓦ナリ。即チ兩者ヲ平均セバ、日本人頭蓋ノ重量ハ五〇五・八二瓦ナリ。(第一表)今是レヲ歐洲人ニツキ計測セル Krause ヨリ換算セルモノト比較スルニ第二表ニ示スガ如ク男性ニ於テ日本人ニ於テ遙カニ輕シ。又 Eulenbunig ニ依ルニ男女兩性共日本人ニ於テ輕キガ如シ。尤モ是等ノ歐洲人ト稱スルハ恐ラク獨逸人頭蓋ニ就テナルベキハ畧々想像シ得ベシ。

第一表

性別	頭蓋ノ重量 (ト鬮チ欠ク)		下 齶 骨 ノ 重 量		頭 蓋 附 下 齶 ノ 重 量	
	調査數	平均重量 (最大—最小)	調査數	平均重量 (最大—最小)	調査數	平均重量 (最大—最小)
♂	228	508.63 (960—300)	159	84.71 (121—28)	157	673.60 (1072—339)
♀	158	443.01 (779—151)	91	53.67 (95—22)	95	500.20 (867—302)
♂+♀	386	505.82 (960—151)	250	69.19 (121—22)	252	586.60 (1072—302)

第二表

日本人 (新川)	歐 州 人 (Krause)	英 人 (Entenberg)
♂ 598.63	643	ca 600
♀ 463.01	467	500

第三表

日本人 (新川)	英 人 (Krause)	歐州人 (Grosser)
♂ 84.71 (121—28)	88.5	88.0
♀ 53.67 (95—22)	—	58.9

—三〇二瓦)ヲ Krause ノ 最大一〇八一瓦、最小四六八瓦ニ比スレバ可ナリ大ナル差アリ。蓋シ日本人女性ガ歐洲人(就中 Krause ノ 材料ハ多クハ獨逸人ナラン?)ヨリモ骨格ノ著シク小ナルモノアルガ爲メナランカ。

第四表

日本人 (新川)	歐 州 人 (Krause)	英 人 (Grosser)
♂ 673.60 (1072—339)	731	755
♀ 500.20 (867—302)	555	595

原氏が報告スル小頭例ニテハ下齶骨七〇瓦ニテ下齶骨其ノモノハ前記日本人下齶骨ノ平均重量ヨリ僅カニ輕キニ過ギズ。然ルニ頭蓋附下齶ニテハ三二〇瓦ニシテ日本人平均男性六七三・六瓦ノ約半ハニ過ギザルナリ。而カモ子ノ例ノ最小三三九瓦ハ老人ノ爲

下齶骨ノ重量ハ Krause ニ依ルニ平均(歐洲人)男性八八・〇瓦、女性五八・〇瓦ナリ。今是レト日本人ノ夫レト比較スルニ平均男性八四・七一瓦、女性平均五三・七瓦ニシテ孰レモ日本人ニ於テ僅カニ輕シ。(第三表)

次ニ頭蓋附下齶骨トシテノ重量ヲ見ルニ第四表ニ示スガ如ク男女兩性共ニ日本人ハ歐洲人ニ比シテ僅カニ輕シ。今、日本人頭蓋附下齶骨及ビ歐洲人ノ夫レノ變異狀態ヲ觀ルニ、子ノ例ニ於ケル最大重量一〇七二瓦及ビ最小重量三〇二瓦(男性一〇七二—三三九瓦、女性八六七

(1599)

(1600)

メニ來タルモノナルモ原氏ノ例ハ正ニ正規ノモノヨリモ遙カニ輕キハ興味アルコトナリ。

次ニ年齢別ニシテ觀察スルニ第五表ニ示スガ如ク、壯年期ニアルモノハ重量大ニシテ六十歳以上ノモノニアリテハ甚シク輕ク殊ニ男性ニ於テ其差大ニシテ大約一〇〇瓦輕減セリ。

第五表

年齢	男		女	
	頭蓋重量 調査數 平均	下齶骨重量 調査數 平均	頭蓋重量 調査數 平均	下齶骨重量 調査數 平均
20—29	51 564.92	36 89.53	27 489.63	18 61.11
30—39	25 630.28	21 86.00	21 427.14	14 50.79
40—49	34 604.71	34 83.17	15 493.07	12 57.83
50—59	26 552.58	22 80.46	8 484.37	5 55.80
60—69	20 534.90	12 63.75	16 424.44	13 46.77
70—x	13 500.77	8 63.87	29 418.31	18 43.88

Pfitznerニ依ルニ下齶ノ頭蓋ニ對スル

重量百分率ハ男性一一・三%、女性一〇・

五%ナリト云フ。今、日本人ニテ予ノ例

ヲ觀ルニ Pfitznerニ比シ遙カニ重ク男

性一四・九%、女性一一・六%ナリキ。

二、齒牙ヲ補充セル頭蓋重量

前項ニ述ベシ所ハ自然標本ノ儘ニテノ重量ニシテ、今日マデ歐人ニ就テ記述セラル、所モ亦恐ラク同様ノモノナリシヲ以テ、彼此相比較スルノ便ヲ思ヒ其儘重量ヲ計測シ、齒牙ノ脱落(標本作製中ノ)ヲ補充セザリキ。然レドモ予ガ前ニ述ベタルガ如ク頭蓋重量トシテ其完全ナルヲ期センニハ齒牙ヲ生前ニ有シタルモノハ是レヲ補充スルノ妥當ナルヲ惟ヒ序言ニ述ベシ如ク平均齒牙重量ヲ加算補充シテ以テ其個體ノ頭蓋重量トセリ。其結果ハ第六表ニ示スガ如ク男性頭蓋(下齶ヲ缺ク)ニテ平均五七六・六三瓦、女性平均四五〇・〇九瓦ナリ。下齶骨ハ男性平均九二・一〇瓦、女性平均六〇・七九瓦、頭蓋附下齶男性平均六八八・二二瓦、女性平均五二三・九八瓦ナリ。是レヲ前項標本齒牙ヲ完全ニ補充セザルモノニ比スレバ(第一表參照)孰レモ其重量ヲ僅カニ増加ス。予ハ此ノ齒牙ヲ補充セル頭蓋重量ヲ以テ日本人晒齶

頭蓋重量ト見做シ是レニ依テ男女性的差異ヲ觀察セントス。

第六表

性別	頭蓋ノ重量(下齶チ欠ク)		下齶骨ノ重量		頭蓋附下齶ノ重量	
	調査數	平均重量(最大—最小)	調査數	平均重量(最大—最小)	調査數	平均重量(最大—最小)
♂	228	576.63 (977—312)	139	92.10 (131—38)	157	688.22 (1108—381)
♀	158	450.09 (786—151)	97	60.79 (103—22)	95	513.98 (883—302)
♂+♀	386	513.36 (977—151)	236	71.45 (131—22)	252	601.10 (1108—302)

第六表ノ男女性平均實測數ヨリ、男性ヲ一〇〇トシ女性ノ比ヲ見ルニ、

男性	100.00	下齶骨	100.00	頭蓋附下齶	100.00
女性	78.06		66.00		74.68

ノ如キ關係ニアリ。此ノ比ヲ見ルニ下齶骨ノ重量ハ男女ニ於テ著シキ差異アルガ如シ。此レ頭蓋ノ性的差異トシテ女性下齶ハ男性下齶ニ比シ著シク小サキコト既ニ一般成書ニ見ル如ク殊ニ Merkel ノ圖ニ示スガ如ク (Rauber-Kopsch 12. Aufl. Knochen, Bänder, Fig. 177.) 男性ヨリモ遙カニ小サキ下齶骨ヲ有スルヲ女性ノ特長トセルニ全然相符合ス。

三、總括

以上予ノ記述セル所ヲ總括スルニ、

- 一、日本人嚙嚼頭蓋重量ハ歐洲人ノソレニ比シ男女兩性共ニ孰レモ稍々輕シ。
- 二、予ハ金澤標本三百八十六個(男性二二八個、女性一五八個)ノ頭蓋ニツキ齒牙ノ脱落(但シ標本作製中ノ脱落)ヲ

(1601)

(1602)

補充シ重量ヲ計測シテ次ノ結果ヲ得タリ。

- (1)、頭蓋(下齶ヲ缺ク)平均重量五・一三・二六瓦(男性平均五七六・六三瓦、女性平均四五〇・〇九瓦)。
- (2)、下齶平均重量七・四・五瓦(男性平均九二・二〇瓦、女性平均六〇・七九瓦)。
- (3)、頭蓋附下齶平均重量六〇・一・二瓦(男性平均六八八・二二瓦、女性平均五二二・九八瓦)。
- (4)、男性重量ヲ一〇〇トシ女性重量ノ比ヲ見ルニ頭蓋缺下齶ハ七八・〇六、下齶ハ六六・六、頭蓋附下齶ハ七四・六八ナリ。

摺筆スルニ臨ミ終始御懇篤ナル御指導ト御校閲ノ勞ヲ賜ハリシ岡本教授ノ御厚意ニ對シ深甚ノ感謝ノ意ヲ表ス。

主ナル引用書目

- 1) 足立文太郎、東京醫學會雜誌、第十三卷(明治三十二年)。
- 2) Baelz, Mitt. d. deutsch. Ges. f. Natur- u. Völkerkunde Ostasiens. Heft 28. 1883.
- 3) Eulenburgers, Real-Encyclopädie der gesammten Heilkunde 1882.
- 4) Grosser, in Kosmann und Weiss, Mann und Weib. Bd. 1.
- 5) Hara, Über den Schädel eines Mikrocephalen, Folia Anat. Jap. Bd. V. Heft 1/2. 1927.
- 6) 小倉井良輔、Mitt. d. med. Facultät d. K. Univ. zu Tokio Bd. II. 1893.
- 7) Krause, Vierordts Anat., Physiol. und physikalische Daten und Tabellen. 二依ル。
- 8) 宮本博人、頭蓋骨ノ研究、東京人類學雜誌、第三十九卷。
- 9) 中野麟太郎、十全會雜誌、第十八卷。